

《平成25年度 事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、機関支援、「サロン」、「年中児集団行動観察」、「ペアレント・トレーニング」、普及啓発を行っている。「年中児集団行動観察」は機関支援の一環として実施している。

1. 相談業務

(1) 相談支援

相談の傾向としては、H24 年度と変わらず、18 歳以上が全体の半数以上を占め、家族・本人からの相談が中心である。未診断も多く、社会生活上での課題を抱えている方が発達障害を疑って相談するケースが多い。

18 歳未満では学齢期の相談が多く、不登校や学校不適応、養育環境の問題等が複雑化しているケースも多く、他機関と協同しての支援が不可欠である。

(2) 発達支援

家庭や所属機関における療育の方針や具体的な支援方法について、本人・家族及び所属機関からの相談を行っている。また、個別支援のための調整会議も行っている。具体的な支援方法についての相談は、発達段階に応じており、子育て全般に関しても行っている。

(3) 就労支援

就労準備（千葉障害者職業センターの職業相談・評価や発達障害者支援カリキュラム等の活用、他の就労支援機関の利用等）や就職活動（ハローワークや民間求人サイト等）、就労後の定着など、一人ひとりのニーズに即した支援を行っている。今年度、9 月末までの就職者数は 13 人（内、障害者雇用枠 9 人）。主な就業先は、事務、軽作業、等である。

2. 機関支援

幼稚園・保育園に訪問し、「気になる子」の行動観察を行った後、園長や担任と対応の仕方について協議している。9 月末で 9 園訪問しているが、必要に応じて数回に渡り訪問している園もある。対応方法を協議することで状況が変化してきたケースもある。

3. 年中児集団行動観察

機関支援の一貫として実施している。乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。現時点で 2 園終了している。

4. サロン

対象は、発達障害の診断を受けていて、診断名を告知されている 18 歳以上（高校生は含まない）の方である。活動を通じて仲間を見つけることや、自分を表現する力と他の人を理解する力の向上を目的とし、茶話会形式で行っている。全 8 回を予定しており、9 月末で 4 回終了している。

5.ペアレント・トレーニング

対象は 4 歳～10 歳の ADHD と診断された子どもの保護者であり、今年度は 5 名参加している。発達障害のある子ども達の行動を理解し、適切な対応について体験的に学び、よりよい親子関係作りと子どもの適応行動の増加を目的としている。全 8 セッションを予定しており、9 月 24 日から開始している。

6. 普及啓発

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。具体的には、一般市民や関係者を対象とした講演会を開催し、発達障害の理解浸透を図っている。今年度は 8 月に「発達障害いいところを活かそう」というテーマで、2 名の講師を招いて講座を行った。

また、発達障害の理解や対応に関すること、就労支援に関することなど、関係機関が開催する研修会などに支援員を講師として派遣している。